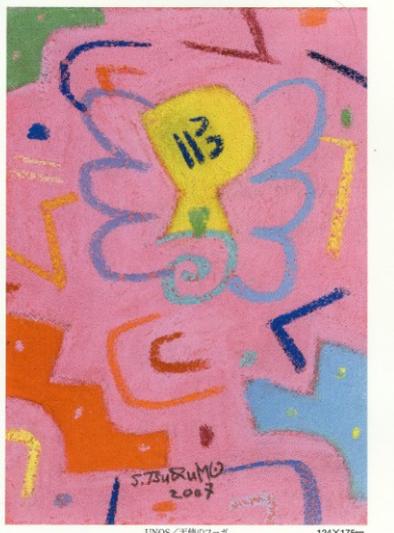


～似合う服を着て～

日常生活において、ファッション・モデルでなくとも誰もが着るものもの事を考え—たとえ人によってセンスが異なっている—自分に合う服を選びます。季節に合わせてですがそれにもまして、人は自分の年齢と背丈に合わせて服を選びます。60代の男性は中学生時代のシャツを着ることが出来ず、50代の女性は小学生時代のスカートをはくことも出来ないからです。

「服」のたとえばは相応しいかどうかは別にして、信仰において成長していない理解は、キリスト者として生きるに当たって大きな妨げになることを見逃してはならないと思います。小学校時代の信仰に対する理解に止まれば、その信仰は大人の信仰生活を支えるところか合わなくなった服が引き出しの奥に収められるように、その信仰は記憶の奥に置き去りにされてしまいます。



UNOS/天後のフーズ 124X175mm

子どもや孫に自分の信じていることを伝えるため、人の異論や異議に伝えることが出来るため、社会の中でイエス・キリストを証しすることが出来るために、自分の信じていることに

ついて常に理解を深めるように心がけなければ

ならないと思います。一手紙の中でペトロが書いたように、「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。それも穏やかに、敬意をもって正しい良心で弁明するようにしなさい」と。(第1ペトロの手紙3、15-16)

もちろん信仰生活において知識を得ること、理解を深めることはすべてではありません。たとえば理解が乏しくても、祈ることによって神と親しく交わり、導いてくださる教会を信頼して信仰に生きることが出来るのですが、それにしても信仰の世界は「盲目」の世界とは違いますので、誰を、何を、どうして信じるか、そのことについて学び、それに対する理解を深めることは大いに望ましく、いや不可欠なことです。

主日の感謝の祭儀の間に私たちは共に信仰を告白していますが、たとえば声を揃えて使徒信条を唱えたとしても、どこまで私たちの口が宣言したことを理解しているのでしょうか。イエス・キリストを信じることは何か。それを把握しなければ、私たちの日常生活は、何を反映することが出来るでしょうか。知識が浅ければ浅いほど、引っ込み思案になり、私たちの信仰は、いつまでも蕾の状態のまま残り、開いた花にはなりません。しかしそうだとすれば、私たち信仰は、イエス・キリストの芳しい香りを放つことが出来ません。下手をすれば、自分の中で神は単に松葉杖のような存在となり、イエス・キリストに従って人々と共に、人々の中で人生の道を歩く、その次元が軽んじられかねないのです。—イエ

スの弟子として、キリスト者として生きて行こうと思
えばどうしても、正しい知識、信仰生活を支える
糧を得ることが必要です。そのために、常に学ぶ
心を自分の内に養わなければなりません。

* 教会は盛んに「養成」という言葉を使っている
のですが、どうして教会はこのように養成の大切
さを訴えているのでしょうか。—現代世界と
社会の中で様々な分野で目まぐるしく著しい
変化が次から次に起こり、その時代の変化に
対応するのに人は—カトリック信者を含めて—
息切れをしたり、窒息したり、くたびれたり、溺れた
りしてしまいます。情報の氾濫のため、メディアの
影響に左右される人々が多く、「自分が自由で
ある」と大きな声で主張しながらも、結果的に
誘導され、流されてしまいます。—その状況の
中で一人のキリスト者として生きるためにどう
判断すればいいのか、どの選択が相応しいか、
何を優先すればいいのかなどのことについて
真剣に考える必要があります。大人として、大
人に合う、似合う「服」を着ることが要求されます。
その時にイエス・キリスト、福音に基づいた分別
が求められています。



*しかし、皆さんが
それぞれ置かれて
いる事情のことを思
うと、たとえ自分の
信仰を養成する大
切さを認めたとし
ても、その養成を行
うことがそれほど簡
単なことではありま
せん。だからこそ教
会としてその「場」を

るため力を入れることには重大な意義があると思
います。



行橋小教区でもすでにその「場」が用意されて
います。主日の司祭の言葉(オミリア:説教)、
聖書を読む会、聖書に親しむ会。しかし仕事や
個人の都合のためにそれに参加することの出来
る方の人数は限られています。

・それで試みとして、行橋小教区において、皆さ
んの日々の努力を支え、その努力に協力する
意味で、年に数回主日を活かして「養成の場」
を設けようと評議会にて提案されました。

* さっそく11月27日(日)9時ミサの後、豊津と
行橋の共同体のために、行橋の聖堂で1回目
の集いを開きたいと思います。1回目ですので、
まず、皆さんの疑問質問に答える形で行いたい
と思います。そのために「知りたいこと」「聞きたい
こと」「今まで思い切って聞けなかったこと」何
でも紙に書いて、用意された箱の中に入れてくださ
い。準備の関係で11月20日(日)までに出し
ていただければ有りがたく思います。堅苦しい
雰囲気のうちではなく、皆さんが気楽な気持ち
で参加することが出来るように、私のわかる範囲
でわかりやすく答えるように心がけたいと思いま
す。この呼びかけが快く受け入れられることを心
から願います。—私たち一人ひとりが信仰に
おいて一層似合う「服」を着ることが出来るた
めに。